

不在

増田 まさみ

無花果の木の根方に

死んだ兎をうめる

腐葉土のその辺り

もつと掘れもうすぐだ

スコップが

母を急かす

暗い穴ぼこへ

跳ね返る小石のように

弟は泣いた

飼鶏を縊り

慈しんだ兎さえ齧いで

糊口を凌いだ

あの、いくさのあとの

一度きりの弔祭――。

黄葉が一枚ずつ幹から剥がれ

止処ない記憶の

どんな日めぐりに導かれ

この世かぎりと泣いた

遠いわたしが蘇るのか

無花果が熟れた

もう誰もいなくなった

空の庭に